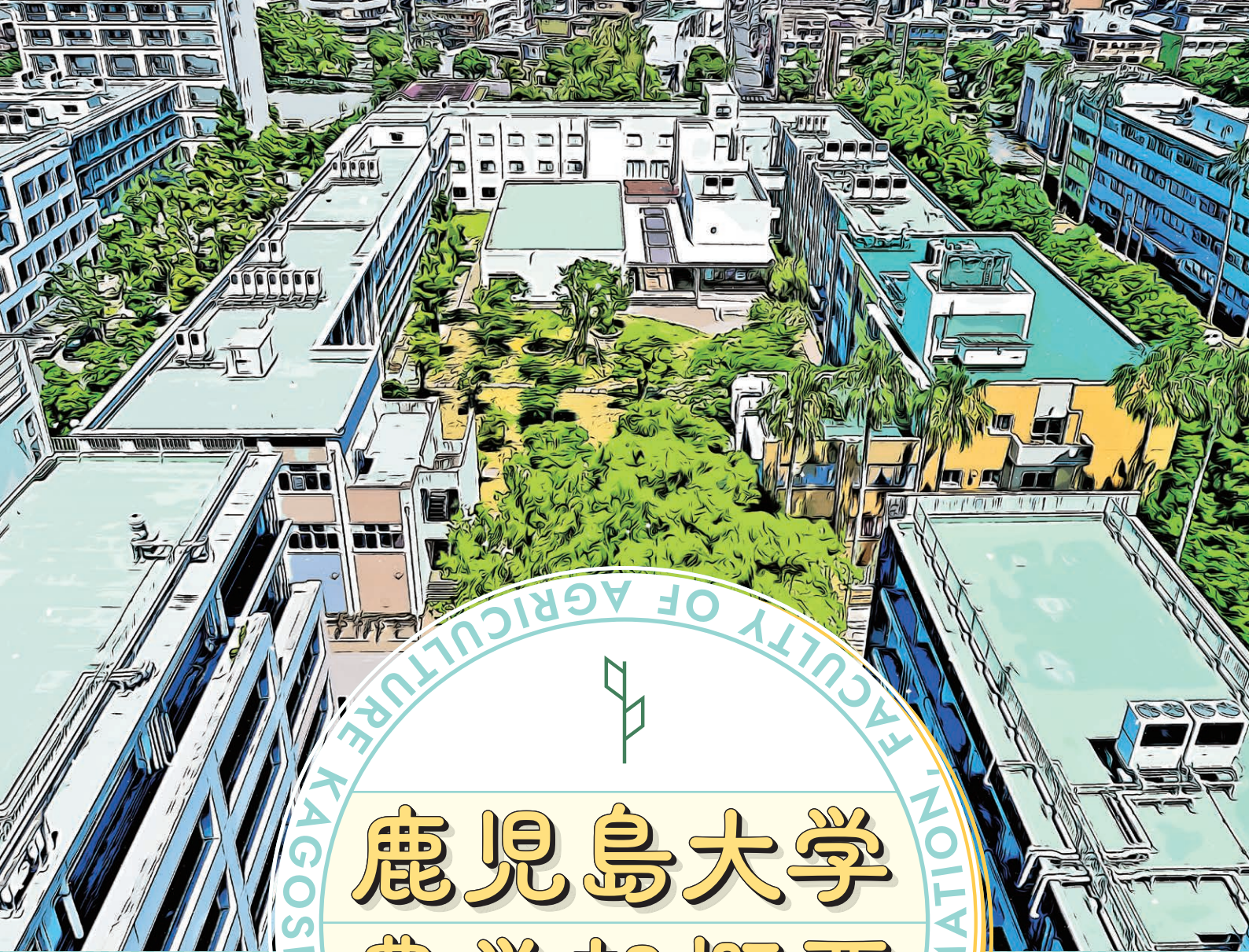




鹿児島大学 農学部概要

2023



食と農、森と水、 基礎から最先端バイオ・農業DXまで



はじめに

人類が持続可能で安定した社会を作るには、十分な栄養を取ることができるような安定的な食料生産や供給が必要です。2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）には、飢餓をゼロに、すべての人に健康と福祉を、気候変動に具体的な対策を、陸の豊かさを守ろうなど農学部に関連した多くの項目が挙げられています。農学部で学べることは人類の未来や世界の在り方への貢献につながる大きな可能性を持っています。

一方で我が国では、食料自給率の向上、食の安全・安心の保障、農山村の活性化、人と自然との環境共生など、解決しなければならない課題が多くあります。また、一次産業従事者が減少する中、経験と勘に基づいた農林畜産業の仕事が見える化する、スマート農業に期待が集まっています。AI・ICTやロボット技術を活用した作業の効率化と労働生産性を向上させる先進的スマート農業を導入するためには、新たな知識や能力が必要になっています。農学部では、令和4年4月1日より農林環境科学科内に「スマート農学コース」を新設しました。新しい技術やDX（デジタル・トランスフォーメーション）の考え方の学びに加えて、農林畜産業に活用するためには、土や植物、生態系、栽培や加工技術など農学の基礎と専門知識

をしっかりと身につけていなければなりません。

鹿児島大学農学部は、日本でも有数の食料生産地である鹿児島県に位置し、温帯から亜熱帯まで南北600kmにも及ぶ多様な自然環境を背景に、フィールド教育を重視し豊かな人間性と現場での実践力や応用力、広い視野と国際性を持った、創造性豊かな人材の養成に努めています。特に、農林畜産物と食料生産技術の開発、生物機能の解明と応用、食の安全性確保、森林生態系の保全と森林資源の活用、地域防災、農山村社会の活性化に関する総合的な課題を解決する能力を身につけた人材の教育と研究に取り組んでいます。

この冊子は、農学部の組織と教育研究内容、附属施設としての農場、演習林、焼酎・発酵学教育研究センターの教育施設、国際交流、社会との連携、大学院などについて解説する概要です。農学部へご関心を持っていたら、ご理解を深めていただければ幸いです。



学部長 寺岡 行雄



鹿児島大学農学部小史

鹿児島大学農学部は明治41年に創設された鹿児島高等農林学校に始まります。

初代校長は玉利喜造博士で、我が国における農学博士第1号となり、日本をリードしてきた農学教育者であります。以来、110年間に輩出された得業生、卒業生、修了生は20,780名に上り、また昭和63年に設置された大学院博士課程における学位取得者は1,161名になっています。

これら卒業生の多くが日本農業の近代化を推進して食料の供給を図り、地域社会へも大きく貢献しています。

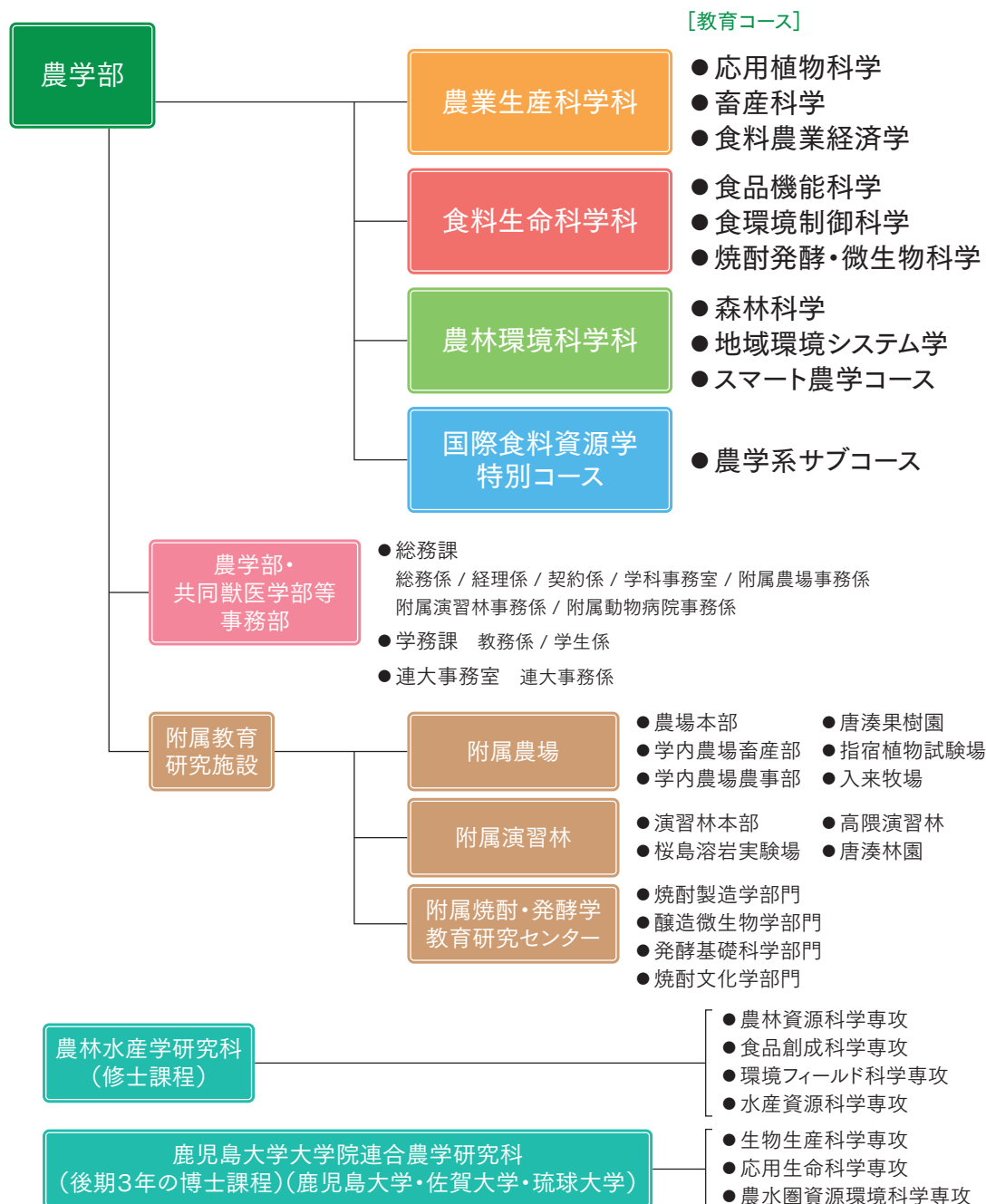


(令和5年3月31日現在)

目次

組織図	3
教育目標	4
アドミッション・ポリシー	4
ディプロマ・ポリシー	4
カリキュラム・ポリシー	4
農業生産科学科	5
食料生命科学科	10
農林環境科学科	15
国際食料資源学特別コース	19
在校生からのメッセージ	21
附属教育研究施設	22
農林水産学研究科	27
連合農学研究科	28
学会賞等の受賞	29
国際交流・外国人留学生	30
農学部の4年間	31
農学部の主な進路	33

組織図



役職員

令和5年4月1日現在

学部長	寺岡 行雄	農業生産科学科長	李 哉 洸
農林水産学研究科長	寺岡 行雄	食料生命科学科長	石 橋 松二郎
農水研副研究科長	西 隆一郎	農林環境科学科長	西 野 吉彦
副学部長	境 雅夫	附属農場長	高山 耕二
副学部長	高 峯 和則	附属焼酎・発酵学教育センター長	玉 置 尚徳
副学部長	山 本 雅史		

教育目標

南九州という多様な自然環境と生物資源に恵まれた地域の特性を活かし、フィールド等での実践的な教育を重視し、豊かな人間性と広い視野、応用・実践能力、国際性を備えた農林業、食品産業等及び食住農関連分野の技術者・指導者などの育成を目指します。

アドミッション・ポリシー

1 求める人材像

鹿児島大学農学部は、次のような学生を国内外から広く求めています。

- (1) 農林業や食料生産、環境保全、生命科学の農学関連分野に強い関心を持ち、将来これらの分野で活躍をめざす意欲のある人
- (2) 自然科学の幅広い知識と外国語の基礎的な学力を備え、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の修得に意欲のある人
- (3) フィールドでの教育に強い関心を持ち、農学に関する実務・実技能力の向上を目指す人
- (4) グローバル化する産業社会に参画し、地域社会、国際社会に貢献することを目指す人

2 入学前に身につけておいて欲しいこと

高等学校の国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などの幅広い基礎学力のほか、特に数学、理科の高い知識・能力が必要となります。

3 入学者選抜の基本方針

農学部では、一般入試（前期日程・後期日程）、推薦入試Ⅰ、自己推薦型入試及び国際バカロレア入試の方法によって入学者を選抜します。

- (1) 一般入試（前期日程）では、大学入学共通テストに加え、個別学力検査を課し、基礎学力および思考力を評価し選抜します。
一般入試（後期日程）では、大学入学共通テスト成績による幅広い学力の確認に加えて、小論文形式によって、理論的思考力、記述・表現力、外国語能力を評価し、総合的に選抜します。
- (2) 推薦入試Ⅰでは、農学への意欲と勉学・研究への潜在能力をもつ学生を受け入れるため、小論文、面接に基づいて総合判定し選抜します。
- (3) 自己推薦型入試では、大学入学共通テストに加え、講義型試験と面接を課し、思考力・判断力・理解力及び文章での表現力などを評価し選抜します。

- (4) 国際バカロレア入試では、コミュニケーション能力や論理的思考力、課題発見・解決能力などの資質を備えていると考えられる国際バカロレア資格取得者に対し、書類審査及び面接を行い総合判定して選抜します。

ディプロマ・ポリシー

鹿児島大学農学部は、全学の学位授与方針及び農学部の教育目標に鑑み、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学位を授与します。

- (1) 幅広い学術的教養を身につけており、論理的に考えることができる能力
- (2) 農林業および食品・生命科学関連産業に関する専門的な知識を有しており、多様なコミュニケーションをとることができる能力
- (3) 農林業および食品・生命科学関連産業の現場において、専門分野に関する地域社会や国際社会のさまざまな課題に対応する方法や技術を習得しており、問題を解決することができる能力
- (4) 農学に関する研究課題について研究を行い、その成果を研究論文としてまとめることができる能力

カリキュラム・ポリシー

鹿児島大学農学部の学位授与の方針に沿った人材を養成するため、豊かな教養を身につけさせるとともに、農学に関連した分野の学問と知識を習得させ、フィールドにおける実践的な力を養うための教育を行います。

- (1) 1、2年次では、共通教育科目を中心に履修させ、幅広い教養を身につけることを目指しますが（DP1）、農学の専門領域への導入的な科目も履修させて基礎を養う科目を配置します（DP1、DP2）。3、4年次では、専門領域の科目を重点的に履修する科目を配置します（DP3）。
- (2) 2年次から3年次にかけて教育コース分けを行い、各コースごとに特色のある講義科目により基礎的な理解度を向上させるとともに（DP2）、本学部の特徴である充実したフィールドトレーニング（実験、実習）により実践力の向上を目指す科目を配置します。
- (3) 3年次から4年次にかけて、研究室への配属を行い、教員による密接な指導や学生間のコミュニケーションと相互指導により課題研究に取り組みながら、問題解決能力を養う科目を配置します（DP4）。



農業生産科学科

Department of Agricultural Sciences and Natural Resources

応用植物科学コース

畜産科学コース

食料農業経済学コース

学科紹介

作物の栽培と家畜の飼養を通して得られる農業生産物は、私たちの生存と豊かな生活を支える源であり、その重要性は変わることはありません。さらに現在は、農業に対しても効率的かつ持続的な生産システムの構築が強く求められています。農業生産科学科は、応用植物科学コース、畜産科学コース、食料農業経済学コースの3コースからなり、日本の主要な農業生産地帯である南九州を教育・研究の場として動植物の生産管理技術の向上、生態系を生かした病虫害制御技術の開発、バイオテクノロジーによる品種改良、農業生産・流通過程の経済分析などの多彩な研究を行っています。そして、これらの研究を通じた教育によって地域から国際レベルまで幅広く対応できる人材を養成しています。

教育目標

日本の主要な農業生産地帯である南九州を教育の場とし、農業生産における動植物の育種、栽培や飼養管理、農畜産物の利活用に関する知識と技術を身につけ、高品質な食料の安定供給や付加価値の高い農畜産物の創出に貢献できる人材の育成を教育目標にしている。

アドミッション・ポリシー

- (1) 英語、理科、数学の十分な基礎学力を備えている人。
- (2) 植物の栽培、動物の飼育、生物・化学実験もしくは調査に意欲のある人。
- (3) 農畜産物の生産・流通・消費に関心を持つ人。
- (4) 農村地域や農村社会に関心を持つ人。
- (5) 農作物や家畜の生産に関わる新技術やバイオテクノロジーに関心を持つ人。
- (6) 海外の農畜産業や食料資源に関心を持つ人。

コース	職名	氏名
応用植物科学	教授	遠城 道雄
		坂上 潤一
		志水 勝好
		橋本 文雄
		山本 雅史
		坂巻 祥孝
	准教授	一谷 勝之
		清水 圭一
		下田代智英
		朴 炳宰
	講師	吉田 理一郎
		香西 直子
畜産科学	教授	大塚 彰
		岡本 新
		後藤 貴文
		三好 和睦
	准教授	井尻 大地
		大久津昌治
		大島 一郎
		下桐 猛
食料農業経済学	教授	高山 耕二
		豊 智行
		李 哉泓
		坂井 教郎
	助教	大住 あづさ





応用植物科学コース

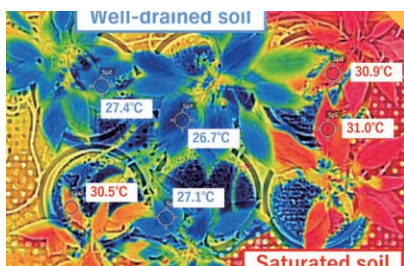
Applied Plant Science

コース紹介

農・園芸作物生産は私たちの生存と豊かな生活を支える源です。応用植物科学コースでは、日本の主要な農業生産地帯である南九州を教育・研究の場として、多様な栽培方法や病虫害防除法、植物の遺伝的改良、さらに地球温暖化等の環境の変化に起因する様々な農業生産上の問題を解決するための研究を行っています。これらの研究を通じた教育によって指導的役割を果たし得る広い視野と国際性を持った人材を養成しています。



露地ナス上の害虫相調査



赤外線サーモグラフィによる葉面温度測定



葉面積の測定



教員からのメッセージ



香西 直子 講師

私の専門は果樹園芸学です。鹿児島県で栽培される熱帯・亜熱帯果樹や落葉温帯果樹について、気温や降水量などの栽培環境が花芽分化や開花結実に及ぼす影響を調査しています。九州本土の最南端に位置する鹿児島県は、落葉温帯果樹栽培の南限であると同時に、熱帯・亜熱帯果樹の北限でもあります。落葉温帯果樹では冬季の低温不足が春の開花不良を引きおこし、栽培が困難になりつつあり、一方で、栽培の拡大が期待されている熱帯・亜熱帯果樹においては、栽培の歴史が浅いため栽培技術の向上が必要です。私たちは、このような問題に対する解決の糸口を探るため、唐湊果樹園や指宿植物試験場など附属農場のほか、生産地域に足を運んで調査研究をおこなっています。果樹は永年性植物のため、データを得るためには時間がかかりますが、少しでも植物反応が見えたときには研究の喜びを感じます。鹿児島でしかできない研究に、これからも挑戦していきたいと思えます。

○学位／博士(農学)愛媛大学 ○専門／果樹園芸学 ○担当講義／植物遺伝資源学、農場実習



畜産科学コース

Animal Science

コース紹介

家畜の繁殖、育種、飼養管理、栄養および解剖を基本として、人工繁殖技術の開発、発生工学、遺伝子改変家畜作製、動物遺伝資源の評価、経済形質と遺伝的多型との関係、地域未利用資源の畜産の利用、放牧、アイガモ農法、鳥獣害防除、新飼料資源の開発、栄養代謝メカニズムの解明、良質な食肉の生産システムの開発、産肉生理および骨格筋の組織学的特性などに関する教育研究を行い、環境と調和した新しい畜産科学の構築を目指しています。

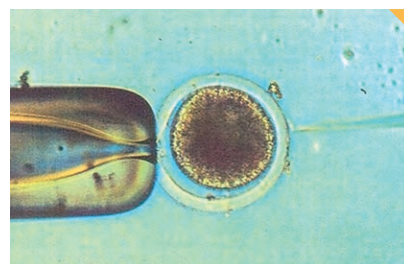
畜産物中の呈味性・機能性成分の分析



体細胞核移植により作出されたクローンマイクロミニビッグ



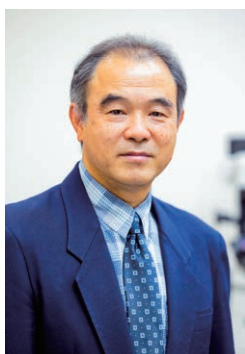
鳥獣害防除に向けたシカの行動学的研究



ウシ卵子への精子の顕微授精



教員からのメッセージ



大久津 昌治 准教授

私の専門は、家畜繁殖学です。鹿児島県が全国に誇る「鹿児島黒牛」や「かごしま黒豚」など家畜を改良・増殖する、また、優良な遺伝資源として保存することに利用・活用できる繁殖技術の開発とその応用について研究しています。動物の生命誕生の神秘さと大切さをいつも感じながら、家畜の精子と卵子（自然繁殖では体内で受精する）を体外で受精させて受精卵を発生させる技術や、家畜の精子、卵子、受精卵を凍結保存する技術の確立を目指しています。また、これらの家畜の繁殖技術を、畜産の現場にはもちろんのこと、鹿児島大学で開発したミニブタや、鹿児島の希少な在来家畜（口之島牛・トカラヤギなど）の保護・増殖にも活用しています。なお、家畜の繁殖技術は、ヒトの生殖補助医療の分野でもよく活用されています。

私たちと一緒に、動物の生命誕生の神秘さと大切さを日々感じながら、新しい繁殖技術の開発にぜひチャレンジしてみませんか。

○学位／農学博士・九州東海大学 ○専門／家畜繁殖学、動物発生工学

○担当講義／家畜繁殖学、動物発生工学、家畜人工繁殖学実習



食料農業経済学コース

Food and Agricultural Economics



コース紹介

食料および農業政策は世界の貿易体制と密接な関係にあり、農産物の流通やアグリビジネスは国境を越えて展開しています。農業者は経営管理のための高度な知識を必要とし、消費者は食の安全と農村の環境保全を求めています。このような問題に社会科学的方法で接近するとともに、経済理論や経営分析、情報処理や農村調査を重視した教育研究を行っています。



ライスミルク製品開発のための試飲会



地域資源の掘起こしのための懇談会



緑茶の消費者ニーズ調査(鹿児島空港)



教員からのメッセージ



坂井 教郎 教授

農業は作物や家畜を育てる産業ですが、それらを育てるのは「人間」です。また農産物（食料）の流通や加工、販売、消費を担うのも「人間」です。そのため食料や農業・農村に関する問題の解決には、それらに関わる「人間」と、人間の集まりである「組織」（会社、組合など）、あるいはもっと大きな単位である「社会」の側面から考えることも必要になります。

食料農業経済学コースでは、食料・農業・農村の問題について、社会科学（人、組織、社会などが研究対象）の面から教育・研究を行っています。食や農に関する現場に出かけ、農家、食品企業、消費者などへフィールドワーク、アンケートなどを実施・分析し、問題を解決する手法を習得することもその中の一つです。

○学位／博士(農学)鹿児島大学 ○専門／農業政策、島嶼農業論 ○担当講義／農業政策学、農産物価格理論



農家調査の様子



農村調査実習の様子



焼酎工場調査の様子



食料生命科学科

Department of Food Science and Biotechnology

食品機能科学コース

食環境制御科学コース

焼酎発酵・微生物科学コース

学科紹介

当学科では、生物学と化学の知識を基本にして、人の生活を豊かにする生命科学分野と作物生産に関連する土壌科学を含む幅広い領域について学習することが出来ます。もちろん、これらに関連した食品や環境科学、バイオテクノロジーの領域も含まれています。学科の3つの教育コースの特徴をあげると、食品機能科学コースは、食品と健康という視点で細胞や動物個体レベルでの食品機能の評価や食素材の開発をめざす分野です。食環境制御科学コースは植物の生育とその前後、土壌やポストハーベストを含めた領域をカバーする分野です。焼酎発酵・微生物科学コースでは、焼酎に関する香味特性、新規製造技術、微生物の育種と特性解明等について研究する分野です。

教育目標

食品の安全確保、食品の栄養生理・機能と健康との関わり、微生物をはじめ生物機能の利用に関する知識と技術を身につけ、食に関係する分野および地域産業として特色のある焼酎・発酵食品産業で活躍できる人材の育成を教育目標にしている。

アドミッション・ポリシー

- (1) 化学と生物学の十分な基礎学力を備えている人。
- (2) 物事に自発的に取り組み、実験や研究に意欲のある人。
- (3) 動植物・微生物の生命現象や食の安全、食品の機能性、発酵食品などに関心のある人。

コース	職名	氏名
食品機能科学	教授	北原 兼文 侯 徳興
		花城 勲 藤田 清貴
	准教授	南 雄二 宮田 健 加治屋勝子
	助教	坂尾こず枝
食環境制御科学	教授	境 雅夫 池永 誠
		岡本 繁久 紙谷 喜則
	准教授	樗木 直也 中村 正幸 濱中 大介 渡部 由香
	助教	赤木 功
焼酎発酵・微生物科学	教授	石橋松二郎 高峯 和則 玉置 尚徳
	准教授	二神 泰基 吉崎由美子
	助教	鶴丸 博人



食品機能科学コース

Food Chemistry and Biofunction

コース紹介

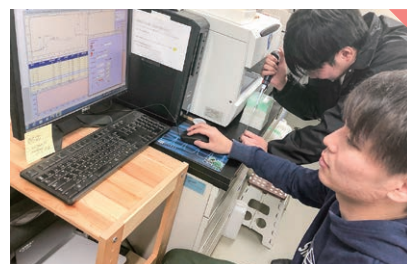
食品のはたらきを科学的に解明することを主な課題としており、私たちの健康に役立つ食品成分の生理機能性や疾病予防機構について研究を行っています。人の豊かな暮らしと健康増進、安全な食品の提供のために、食品成分の生体に及ぼす影響を遺伝子、細胞、動物個体レベルで解析し、新機能を付与した食品を開発しています。また、動物・植物・微生物の生体成分、たとえばタンパク質や多糖類、生理活性物質などの構造と機能について分子レベルで解明するとともに、細胞や微生物を利用して有用な新バイオ素材を開発しています。



食品中の成分分析



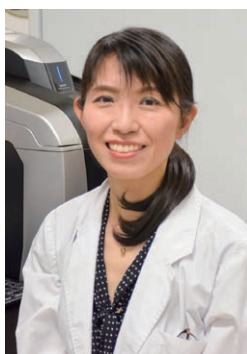
酵素法による糖の選択的定量



オリゴ糖の機器分析



教員からのメッセージ



坂尾 こず枝 助教

皆さんが日々口にする食品には三つの基本的な機能があることがわかってきています。生命維持のための一次機能（栄養素）、味・香り・美味しさなどの二次機能（感覚・嗜好）、そして体調のリズム調節や生体防御、疾病予防などの健康を維持する三次機能（体調調節）です。食品機能科学コースでは、食品に含まれるこれらの機能性を科学的根拠と共に明らかにしたり、高い機能性をもつ食品を探索したり、逆に食品機能を利用してワクチン開発や抗がん剤を作製してみたりと、様々な実験を実施している研究室が沢山あります。

皆さんが食べているものが、どのような機能を発揮するのかを知りたくなったら、是非、食品機能科学コースを覗いてみて下さい。

○学位／博士(農学)鹿児島大学 ○専門／食品科学、分析化学、有機化学
○担当講義／分子食品学、分子機能科学実験、他



食環境制御科学コース

Food Safety and Bio-Environmental Science

コース紹介

農作物の生産に関わる土壌環境、植物の病害、植物の生理と栄養などと、農作物の保蔵・加工・流通にかかわる過程について教育研究しています。これらのことはさまざまな面で、食の安全を確保することに深く関わっています。環境を保全しながら高品質で安全な食品を、安定的に持続的に供給することを目指し、研究と実践的な人材養成に取り組んでいます。



トマト病原菌を抑える実験



吸光度計によるDNAの濃度測定



農産物生産の基礎を学ぶ



教員からのメッセージ



池永 誠 准教授

土壌など食料環境を取り巻く環境には、至る所に微生物がいます。一見すると、微生物は複雑なことをしていないさそうですが、実は微生物は互いに相互作用しながら生きています。さて、土壌微生物学の研究分野にも次世代シーケンスによる網羅的解析法が登場し、「遺伝子を読む時代」から、「遺伝子から読み解く時代」に移り変わってきました。これにより、微生物間相互作用の解明が可能になっただけでなく、読み解いた遺伝子の中から、従来の微生物の培養実験では得られなかった、新奇な機能も発見されてきました。私たちの研究室では、網羅的解析技術を駆使して微生物が持つ潜在力を解明し、微生物の機能を農業に活かす研究を進めています。

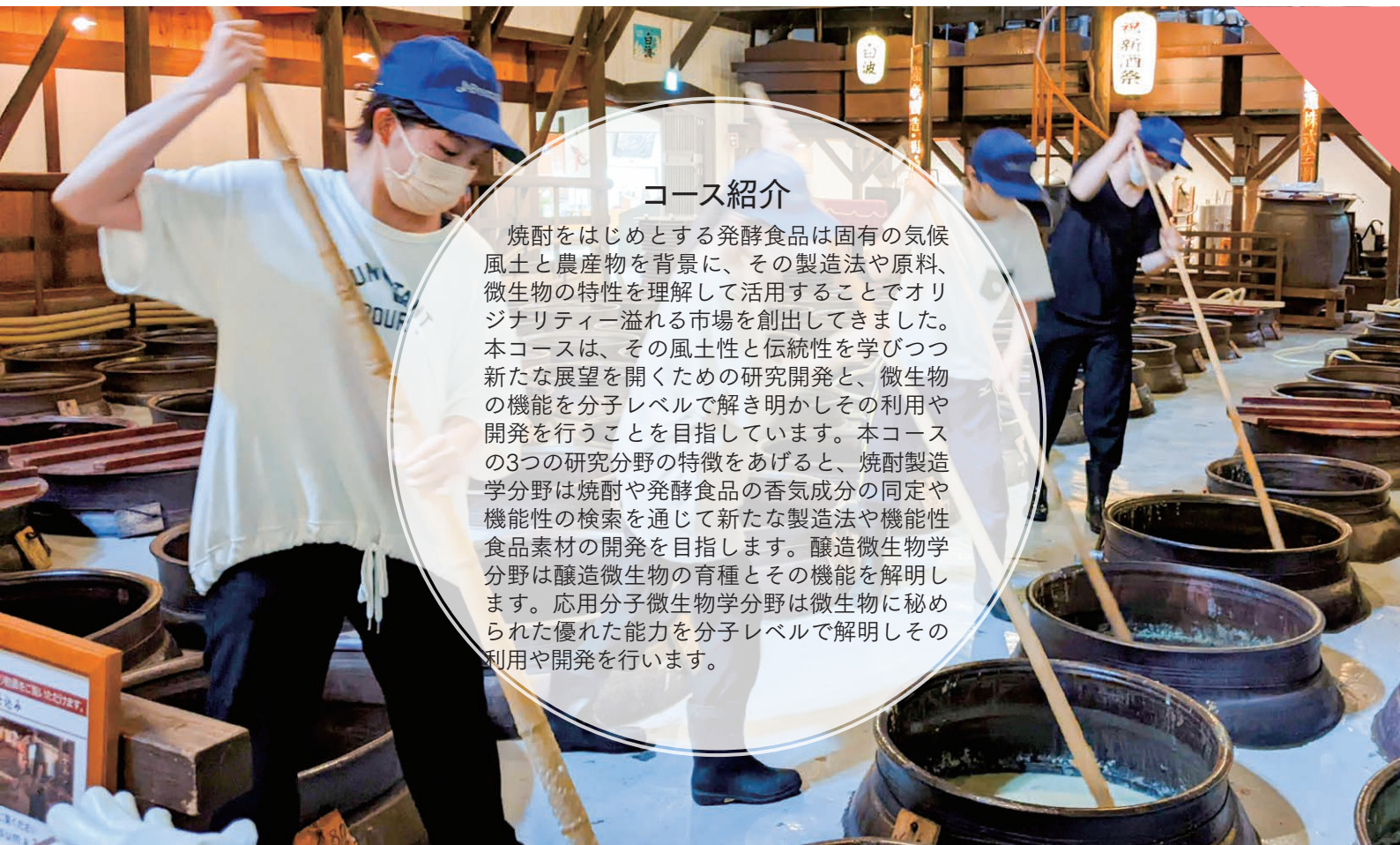
○学位／博士(農学)名古屋大学 ○専門／土壌微生物学

○担当講義／農学入門、無機化学、食環境微生物学、Advanced Plant Production Science、他



焼酎発酵・微生物科学コース

Fermentation Technology and Microbial Science



コース紹介

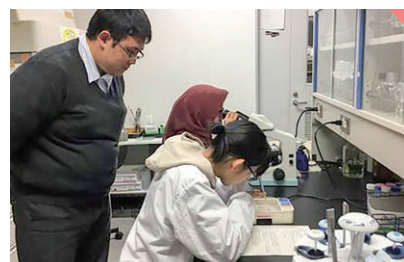
焼酎をはじめとする発酵食品は固有の気候風土と農産物を背景に、その製造法や原料、微生物の特性を理解して活用することでオリジナリティー溢れる市場を創出してきました。本コースは、その風土性と伝統性を学びつつ新たな展望を開くための研究開発と、微生物の機能を分子レベルで解き明かしその利用や開発を行うことを目指しています。本コースの3つの研究分野の特徴をあげると、焼酎製造学分野は焼酎や発酵食品の香気成分の同定や機能性の検索を通じて新たな製造法や機能性食品素材の開発を目指します。醸造微生物学分野は醸造微生物の育種とその機能を解明します。応用分子微生物学分野は微生物に秘められた優れた能力を分子レベルで解明しその利用や開発を行います。



麹造り



白麹菌の顕微鏡観察



ゲノムDNAやPCR産物等の解析



教員からのメッセージ



二神 泰基 准教授

発酵産業では微生物のはたらきを上手くコントロールすることで、様々な発酵食品や有用物質がつくられています。発酵は私たちにとって身近な存在なので、そのメカニズムについても全て分かっていると思われがちですが、実は分っていない興味深い現象がたくさん存在しています。例えば、私が研究している焼酎造りに使われる麹菌が大量のクエン酸を生産できる能力もそのひとつです。私たちはこのようなブラックボックスを解明するための研究やその成果を利用した新技術の開発に取り組んでいます。

微生物の性質を分子のレベルで理解することは、有用物質を効率よく生産したり、美味しく体に良い発酵食品を製造したりする技術の開発につながります。私たちと一緒に、日々の微生物の研究を通して発酵の様々なメカニズムの解明や新しい発酵技術の開発を行ってみませんか。

○学位／博士(農学)九州大学 ○専門／応用微生物学、発酵化学
○担当授業／遺伝子工学実験、醸造微生物学など



農林環境科学科

Department of Environmental Sciences and Technology

森林科学コース

地域環境システム学コース

スマート農業コース

学科紹介

農林環境科学科には、森林科学と地域環境システム学の2つの教育コースがあります。本学科では、森林管理・計画、森林・林産物の利活用、森林技術者養成、バイオマス資源の生産と利用、農業環境情報、砂防・水文、農地や水資源の保全と管理、および環境教育に関する教育研究を行っています。

教育目標

農林環境科学科では、地域農林資源の利活用および森林や農地の保全と防災に関する知識と技術を身につけ、自然と調和した農林業生産の基盤づくりおよび農山村の振興や生活環境の維持と創出に貢献できる人材の育成を教育目標にしている。

アドミッション・ポリシー

- (1) 数学、物理、化学、生物、地学、社会、外国語の基礎学力を備えている人。
- (2) 地域資源を利用した農業や林業の振興、森林や農地といった国土の整備・保全のための勉学に意欲を持つ人。

コース	職名	氏名
森林科学	准教授	鵜川 信
		加治佐 剛
		寺本 行芳
		畑 邦彦
	助教	奥山洋一郎
		榮村奈緒子
		牧野 耕輔
		安田 悠子
地域環境システム学	教授	地頭菌 隆
		寺岡 行雄
		西野 吉彦
	准教授	伊藤 祐二
		井倉 洋二
		神田 英司
		肥山 浩樹
	助教	末吉 武志
		平 瑞樹



森林科学コース

Forest Science

コース紹介

暖帯林から亜熱帯林の森林生態系に関する理解を深め、国内有数の木材供給基地である南九州の森林資源の循環的利用と森林や山地を中心とする国土保全のための計画・管理に関する知識と能力を持った人材を育成します。

森林資源の循環的利用に関する研究

世界自然遺産の森林生態系に関する研究



ICT林業に関する研究
(ドローンを活用した森林情報の収集)



高隈演習林での実習
(チェーンソーでスギの伐採を体験)



ドイツ・ロッテンブルグ林業大学との学術交流
(ドイツの森の管理についての講義)



教員からのメッセージ



榮村 奈緒子 助教

森林にすむ動物の生態や管理について研究と教育を行っています。鹿児島は南北600kmに広がり、暖温帯から亜熱帯を含む森林に多様な生物が生息している魅力的なフィールドです。最近、演習林や奄美大島をフィールドに希少種や農林業被害で問題になっている鳥獣のモニタリング、種子散布にかかわる生物間相互作用の理解について取り組んでいます。

森林科学コースでは、他にも菌類や植物の生態、森林資源の利用・政策、スマート林業、防災などが専門分野の教員がいて、森林について多角的に学ぶことができます。一緒に森林に関わる様々な課題について、考えていければうれしいです。

○学位/博士(理学)立教大学 ○専門/森林保護学、動物生態学、多様性生物学
○担当講義/森林動物学、森林生態学実習、他



地域環境システム学コース

Environmental and Bioresource Engineering

コース紹介

地域環境システム学コースは、自然と調和した農業生産の向上や持続可能な地域環境を創出するため、地域資源の管理や環境の保全、農業生産基盤の整備および地域防災に関する情報の発信について教育研究を行っています。

地下ダムからの農業用水の確保とスプリンクラー散水実験



沖永良部島におけるサトウキビの水消費に関する現地調査



深層崩壊発生場の予測のための水文調査



ドローンによるアーモンド畑からの情報収集



教員からのメッセージ



西野 吉彦 教授

木材と木質系材料の性質と利用に関して研究しています。木材は、日本では建築構造材料としてなくてはならないものです。スギやヒノキなどの国産針葉樹材が古くから柱材として利用されてきました。現在では、大規模な構造物の部材として、集成材などの木質系材料が広く利用されています。新国立競技場の屋根架構に国産針葉樹の集成材が使用されていますが、鹿児島県内においても大断面をもつ集成材の構造物を見ることができます。皆さんの周りにも家具や楽器などに多くの木材が利用されています。木材の利用を通して、未来の社会のあり方や環境と調和した生活について学んでいくことができればと思っています。

○学位／博士(農学)京都大学 ○専門／木材工学、木材物理学
○担当授業／応用力学、バイオマス工学、環境物理学実験、他



スマート農学コース

Smart Agriculture and Forestry

コース紹介

ICT・ロボット技術、ビッグデータとAIやIoTなどの先進技術を活用した農林産物の生産・流通・加工のバリューチェーン型の基礎的な知識と論理を修得し、気候変動や人口減少社会における地方創生に向けた農林業のDXやグローバル化を推進する人材を育成するためのコースです。

産業用ドローンによる水田の農薬散布



地上レーザスキャナによる樹木計測



ドローン画像によるサツマイモ基腐病の識別



無人茶摘み機械による収穫



教員からのメッセージ



寺岡 行雄 教授

我が国では、食料自給率の向上、農山村の活性化、人と自然との共生など課題が多くあります。また、農林業で働く方が減少する中、経験と勘に基づいた農林業の技術を見える化するスマート農業・林業が期待されています。ICTやロボット技術を活用した作業の効率化を向上させるスマート技術の導入を進めるためには、新たな知識と技術が必要になっています。スマート農学コースは、農林業のDX化を推進するため、農業機械の自動化、ドローン実習やIoTセンサーの活用、レーザ計測や画像処理等を含む農林産物の生産・流通・加工のスマート化技術を学ぶ教育カリキュラムを配置しています。将来の知識集約型社会の構築に貢献でき、地方創生に向けた農林業関連人材を育成します。

○学位／博士(農学)九州大学 ○専門／森林計画学、林業経営情報システム学、スマート林業

○担当授業／スマート農学概論、農林業ICT論、地域計画学、測量学Ⅱ、他



国際食料資源学特別コース

Special Course in International Food and Resource Sciences

アドミッション・ポリシー

特別コースは、次のような学生を求めています。

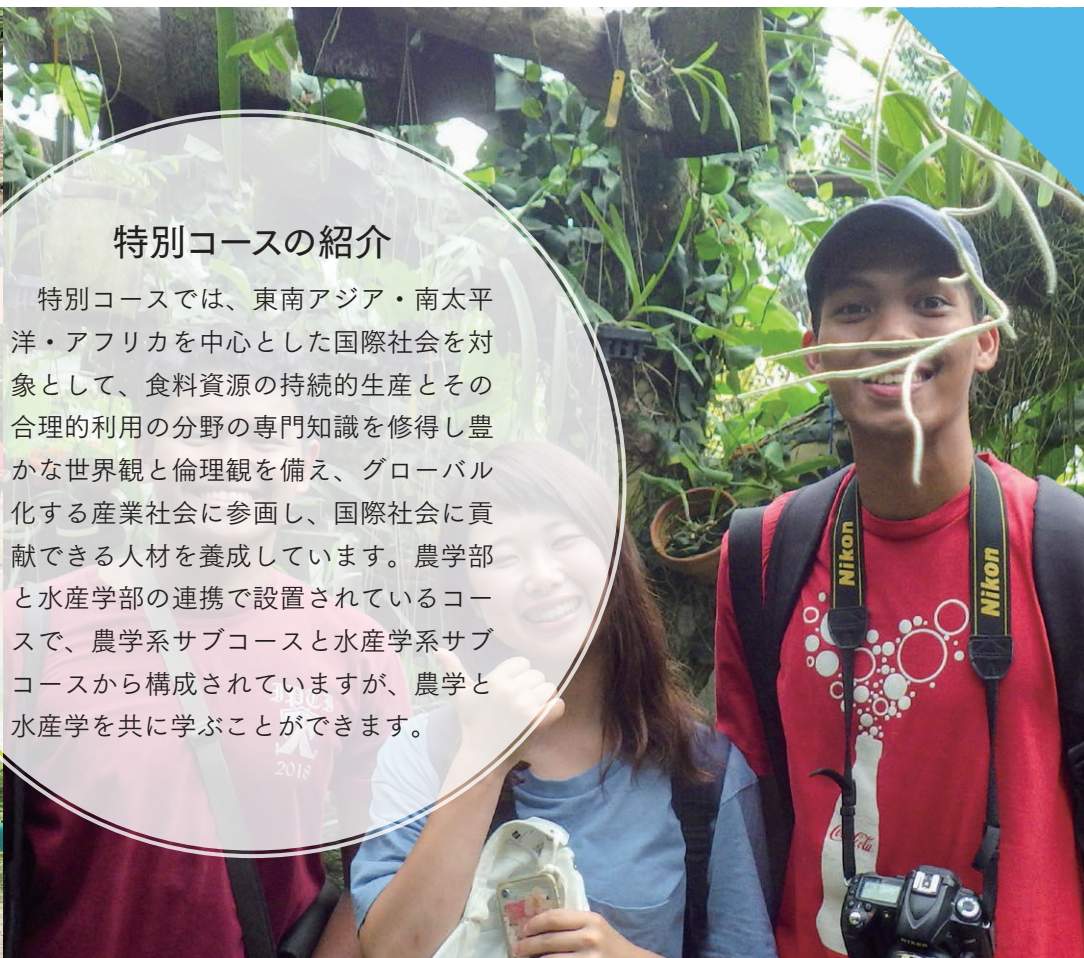
- (1) 国際食料資源学特別コースの教育目標に共感し、その実現に向けて考える力と意欲を持つ人。
- (2) 国際的視点に立った食料・資源問題の解決に熱意と意思を持つ人。
- (3) 実用的な英語力の強化に意欲のある人。
- (4) 学ぶことに努力を惜しまず、社会の持続的発展に取り組む意欲を持つ人。

コース	職名	氏名
農学系 サブコース	教授	遠城 道雄
		坂上 潤一
	准教授	フェスターガード C ムンデランジ



国際食料資源学特別コース

Special Course in International Food and Resource Sciences



特別コースの紹介

特別コースでは、東南アジア・南太平洋・アフリカを中心とした国際社会を対象として、食料資源の持続的生産とその合理的利用の分野の専門知識を修得し豊かな世界観と倫理観を備え、グローバル化する産業社会に参画し、国際社会に貢献できる人材を養成しています。農学部と水産学部の連携で設置されているコースで、農学系サブコースと水産学系サブコースから構成されていますが、農学と水産学を共に学ぶことができます。



熱帯作物キャッサバの収穫



ドラゴンフルーツの栽培



キャッサバの植え付け



教員からのメッセージ



坂上 潤一 教授

本特別コースの学生は、他の学科・コースとは異なったカリキュラムで学んでいます。農学を基盤とした食料資源学を専門とし、国際的な活動を可能にする英語等の語学力を向上します。さらに、理系学部にはない、国際協力・開発などの文系分野の学びも充実しています。4年生時にはアフリカ、南米、東南アジア、ヨーロッパなどに学生が派遣され、卒業プロジェクトを実施しています。特別コースには、日本各地から多様な学生が集まってきており、また文部科学省の外国人学費留学生優先配置プログラムの留学生が配置されるなど、鹿児島にしながら国際的な環境でキャンパスライフを楽しめます。本コースは、世界的な食料資源問題、地球環境問題などグローバルな課題の解決に興味があり、世界で活躍したいと思っている人にはお勧めです。私たち国際経験豊かな教授陣がサポート、バックアップします。

○学位／農学(博士) 千葉大学 ○専門／熱帯作物学

○担当授業／国際食料資源学、熱帯作物学、植物遺伝資源学、Agricultural Production Scienceなど

在校生からのメッセージ



食料生命科学科 焼酎発酵・微生物科学コース 4年

金色 遼

私は本コースで原料のサツマイモから収穫した自分の焼酎を製造したり、酒蔵に赴いて製造体験をさせて頂いたり、学祭ではコース全員で甘酒の製造・販売を行ったり、一生の思い出と学びとなる体験をたくさんさせて頂きました。先生も先輩方も知識と優しさと熱意に溢れた方ばかりで、焼酎に興味のある方もない方も充実した学生生活を送ることができる素敵なコースだと思います。



農業生産科学科 畜産科学コース 修士課程1年

岩元 省高

私は、主にウシの生殖工学技術の向上に関する研究を行っています。家畜の繁殖技術は動物にとどまらず、人の医療の分野でも応用されているのが特徴です。本学科では、植物から畜産、経済まで、食べ物の生産に関わる分野から幅広く選択して学ぶことができます。専門の分野にはなりますが、様々な場面で他分野との関わりがあり、猝にとらわれない、可能性が秘められた分野だと日々感じています。



国際食料資源科学特別コース 3年

三宮 美結

このコースでは、農学、水産学の分野で幅広く食糧資源の問題を学び、最も興味のある分野に進むことができます。そのため、学科に縛られることなく研究室を選ぶことができ、柔軟性があるのがこのコースの特徴です。また、海外研修や海外での卒業プロジェクトなど、海外に行く機会が与えられ、国際交流を盛んに行うことができます。必修科目が少ないため、選択科目で自分の興味が湧いた分野の科目をたくさん取ることができます。そのため、国際食料資源問題に興味がある人だけでなく、まだ明確に行きたい分野が決まっていない人にもお勧めです。



農林環境科学科 地域環境システム学コース 4年

三浦 菜名穂

本コースでは、農業のインフラとなる農地の整備や保全から作物の生産に必要な水利用、気象環境、砂防、木質、農業機械など幅広い分野を学ぶことができます。入学当初、私は森林や農業に関する知識があまりなかったのですが、専門分野を学んでいくうちに研究したいことを見つけることができました。みなさんも自分の目標をみつけ、これからの農業を支えていきませんか？





学会賞等の受賞

2022-2023

2022

日本土壌微生物学会2022年度大会 優秀ポスター賞（2022年6月19日）

「異種微生物間共生培養系から分離した新規細菌 *Rhodobacter* sp. KU01^T 株と *Zoogloea* sp. KU02^T 株の特性解析と同定に関する研究」

（生命：深堀大介、池永誠、境雅夫）

第44回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム 優秀ポスター賞（2022年8月21日）

白麹菌 *Aspergillus luchuensis* mut. *kawachii* における α - アミラーゼ AmyB の機能解析

（生命：井上太雅、奥津果優、吉崎由美子、高峯和則、玉置尚徳、二神泰基）

全国大学附属農場協議会 2020年度全国大学農場技術賞（2022年9月15日）

「暖地における遺伝資源植物を活用した栽培技術構築と教育・研究への貢献」

（附属農場：野村 哲也）

2022年度日本農芸化学会西日本支部優秀発表賞（2022年9月23日）

「血管弛緩により高血圧予防に寄与するオクラの解析」

（生命：榊原夢未、南雄二、加治屋勝子）

日本醸造協会技術賞

麹菌菌種が芋焼酎の香味形成に及ぼす影響に関する研究（2022年10月1日）

（生命：高峯和則）

第14回日本醸造学会若手シンポジウム 醸造ベーシックサイエンス賞（2022年10月14日）

白麹菌における α - アミラーゼ AmyB の機能解析

（生命：井上太雅、奥津果優、吉崎由美子、高峯和則、玉置尚徳、二神泰基）

日本生物工学会 第30回生物工学論文賞（2022年10月17日）

Citrate exporter enhances both extracellular and intracellular citric acid accumulation in the koji fungi *Aspergillus luchuensis* mut. *kawachii* and *Aspergillus oryzae*

（生命：中村恵理、奥津果優、吉崎由美子、高峯和則、玉置尚徳、二神泰基）

第17回九州育種談話会 優秀発表賞（2022年12月16日）

農林資源科学専攻植物生産科学コース・柴田雪花（学生）

「イオンビーム照射で誘発される突然変異とゲノム情報を利用したイネ雑種弱勢原因遺伝子の特定に向けて」

（生産：柴田雪花、高橋龍成、前田幸暉浩、田浦悟、石川隆二、久保山勉、一谷勝之）

2023

国際ソロプチミストアメリカ日本南リジョン2022-2023夢を生きる賞クラブ賞（2023年3月20日）

食料生命科学科食品機能科学コース・宮田采奈（学生）

「ソテツ種子由来抗菌ペプチド Cy-AMP の精製および結晶化について」

（生命：南雄二、加治屋勝子）



附属教育研究施設

Facilities of the Faculty

附属農場

附属演習林

附属焼酎・発酵学教育研究センター





鹿児島県内の学内外4ヶ所に立地した施設を持つ分散型農場であり、その面積は合計161haに及びます。ここでは、南九州の気候的利点を最大限に生かしながら、地域に密着した作物、園芸、畜産に関する生産と試験・研究に取り組んでいます。学生実習は質量とも多岐にわたり、講義や実験で得た知識や技術を実際の農業の場で生かし、「農」の総合性を理解することに重点を置いています。

学内農場農事部(3.20ha)

輪作や緑肥作物を取り入れた作付け体系、施設栽培により、普通作物や園芸作物の栽培が行われ、キャンパス内に位置することから、研究室の研究だけでなく、その圃場の多くが学部学生の実習にも使われています。また、輪作体系に基づく、持続的農業についての研究も行っています。



田植え

学内農場畜産部

学内農場に隣接し、家畜の生産技術に係わる実習と研究が行われています。キャンパス内にあり、かつ様々な種類の家畜・家禽が飼養されていることから、日常の繁殖、育種、および飼養管理等の業務を実地体験し、それらに係る基本や応用的技術を習得することができます。



ヤギの飼養管理

職名	氏名
教授	遠城 道雄
准教授	大島 一郎
	朴 炳宰

唐湊果樹園(7.30ha)

温帯果樹と亜熱帯果樹を主に栽培しています。特にカンキツ、ビワ、カキ、モモ、ブルーベリー、ブドウなどの有用果樹類が豊富に維持され、それらの評価、利用の研究が行われています。実習教育だけでなく、学内外からの研究の場として利用されています。



カンキツ袋掛け

指宿植物試験場(2.89ha)

薩摩半島南端の温暖な気候と温泉熱を利用して、熱帯・亜熱帯性有用作物の導入と順化、暖地作物の栽培についての教育研究が行われています。また、膨大な数の熱帯・亜熱帯性有用作物遺伝資源を収集育成しており、学内外の研究に広く活用されています。



ブーゲンビリア誘引

入来牧場(147.84ha)

入来牧場では、持続可能な畜産業の実践をテーマとして、150haという広大な敷地を活用した放牧による繁殖牛飼養、子牛生産、牛肉生産に関する教育・研究を展開しています。また、南西諸島の貴重な遺伝資源であるトカラウマや口之島野生化牛も飼養されています。



牧場から見られる雲海

教員からのメッセージ



高山 耕二 附属農場長

私は学生時代、農場で『アイガモ農法に関する研究』に取り組みました。その後、ミャンマーで農業分野での国際協力活動に従事し、今は自分の農地でヤギやニワトリを飼いながら、田んぼでの米づくりを楽しんでいます。振り返れば、農場で研究に取り組む中で水稻の栽培技術、農機具の使い方、そして農業をする上で欠かせない人との接し方を学び、それが今でも大いに役立っています。

自然に向き合い、その恵みを受けながら、食料を生産するのが農業です。農場は皆さんが座学で学んだことを、実践を通じてさらに理解を深めていく貴重な場でもあります。鹿児島大学農学部附属農場では、様々な作物や果樹が栽培され、貴重な遺伝資源の保存や新たな技術の開発も進められています。この魅力あふれた農場でスタッフとともに、“農”に対する知識と理解を深めてください。

○学位／博士(農学)鹿児島大学 ○専門／家畜管理学、動物行動学

○担当授業／有機畜産論、応用動物行動学、有機農業Ⅰ 新しい食と農のかたち(共通教育)、他

職名	氏名
准教授	井倉 洋二
助教	牧野 耕輔
特任助教	滝沢 裕子



森林・林業に関する教育研究のために3400haの広大な森林が用意されています。森林科学コース（農林環境科学科）の学生を中心に、たくさんの実習科目で演習林を活用します。実習では宿舍で合宿生活をしながら、樹木、育林、計測、生態、林産、砂防、環境教育などのさまざまな分野を実地で学びます。最近では共通教育科目や他大学の授業などにも多数利用されています。

高隈演習林(3061ha)

大隅半島の垂水市にあり、照葉樹林と屋久杉などの人工林がおよそ半分ずつを占めています。人工林は施業をしながらさまざまなタイプの森林を整備しています。ほとんどの試験研究と実習がここで行われています。

佐多演習林(299ha)

九州最南端の地にあり、亜熱帯的要素を含む特有の動植物が豊富で、貴重な教育研究材料を提供してくれます。

桜島溶岩実験場(37ha)

大正3年の桜島大噴火で流出した溶岩台地にあり、不毛の岩石地がしだいに森林化してゆく植生遷移の研究の場となっています。



演習林宿舍

研究テーマ

- スギ林の施業と高品質大径材の育成
- 様々な樹種の遺伝子保存と育成
- 林業生産システムに関する研究
- 森林環境教育と農山村の地域づくり
- 低コスト造林の実証実験
- 野生鳥獣の生息状況モニタリング



附属焼酎・発酵学教育研究センター

Education and Research Center for Fermentation Studies (ERCFS)

本センターは、焼酎製造学部門と醸造微生物学部門、発酵基礎科学部門、焼酎文化学部門を設置し、焼酎に関する教育・研究に加え、研究の対象を広く発酵食品と発酵文化の領域まで含むことで、鹿児島における発酵学の中核機関としての機能を担うことを目的に平成23年4月に設立されました。風土性と伝統に学びつつ、新たな展望を開くための研究開発を通じ、鹿児島の誇る焼酎を始めとする発酵食品文化を継続的に発展させ、これからの焼酎・発酵分野を担う人材の育成を目指します。

白麹菌分生子の電子顕微鏡写真



焼酎・発酵学教育研究センター(北辰蔵)



麹づくり



きき酒



北辰蔵(焼酎製造実習棟)

麹室、発酵試験室、研究用ガラス製蒸留器および小型実用蒸留器を備えており、焼酎造りの主な工程を行うことができます。また、造った焼酎の香り、成分の分析装置やきき酒を行う官能検査室もあります。



研究テーマ

- 焼酎・発酵食品の香気成分の同定と生成機構
- 発酵食品の機能性の検索
- 醸造微生物の機能解明
- 醸造微生物の育種
- 焼酎副産物の機能性解明・用途開発



研究部門

- 焼酎製造学部門
- 醸造微生物学部門
- 発酵基礎科学部門
- 焼酎文化学部門

職名	氏名
教授	高峯 和則
	玉置 尚徳
准教授	二神 泰基
	吉崎由美子
特任助教	奥津 果優

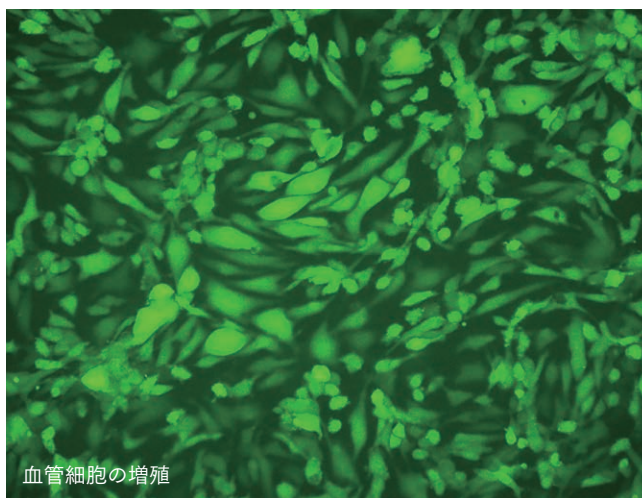
農林水産学研究科

Graduate School of Agriculture, Forestry and Fisheries

食料基地である南九州の地域創生支援



天敵微生物(糸状菌)に侵された新規侵入害虫ツマジロクサヨトウ



血管細胞の増殖

農水融合の高度な実践教育

本研究科は、国内有数の食料供給地である南九州から東南アジア・南太平洋を視野に、人々の健全な生活基盤である農林水産業・食・環境・生命科学の分野の高度専門教育を行い、資源の持続的生産とその合理的利用及び環境保全に対応するスペシャリストの養成を目指しています。これによって、急速にグローバル化する産業構造の変化、地球規模での環境変動、ならびに地方で特に深刻な労働力人口の激減など、地域と世界が直面する課題の解決に貢献しようとするものです。

これらの課題を解決するために、質の高い農水融合型教育の強化を目指し、既存の農学研究科と水産学研究科を統合して農林資源科学専攻、食品創成科学専攻、環境フィールド科学専攻、水産資源科学専攻の4専攻で構成する農林水産学研究科を設置しました。

農林資源科学専攻

ICT 農林畜産業に関する高度な知識や高度なマーケティング能力を有した人材、鳥獣害・過疎化等への対応、地域や市場ニーズに適應可能な人材育成を行います。

環境フィールド科学専攻

農学分野と水産学分野双方の高度な知識を有し、環境科学を活かし地域の課題解決（環黒潮圏、資源変動、自然災害、環境保全等）に貢献できる人材育成を行います。

食品創成科学専攻

農学分野と水産学分野双方の高度な知識を有し、食の安全・品質保証・グローバル化に適應可能な人材育成を行います。

水産資源科学専攻

水産業の課題解決（持続的生産、養殖生産効率化、漁場保全、流通政策、アジア市場開拓等）に向けた高度な知識を有する人材育成を行います。



連合農学研究科

The United Graduate School of Agricultural Sciences

3大学連携の教育・研究体制を持つ農水産系研究科

ユニークな教育・研究体制で成果を発揮

本研究科は下記の3大学の農水産系学部、大学院修士課程研究科を母体として鹿児島大学に農水産系の博士課程を設置した連合型の大学院です。ユニークな教育・研究体制を持ち、これまで多くの博士を誕生させています。

佐賀大学	農学部・大学院農学研究科・大学院先進健康科学研究科
鹿児島大学	農学部・大学院農林水産学研究科
鹿児島大学	水産学部・大学院農林水産学研究科
琉球大学	農学部・大学院農学研究科

本研究科は3専攻・9連合講座からなり、博士（農学）、博士（水産学）または博士（学術）の学位を取得することができます。

学生に対して3名からなる指導教員が研究指導体制をとることにより、きめ細かな教育を受けることができます。

本研究科には、アジア、アフリカ、中南米などからの多くの留学生が学んでおり、日本の社会に溶け込んで、日々研究活動に励んでいます。



連合農学研究科研究棟

専攻名	専攻内容	連合講座名	定員
生物生産科学	農産物の生産向上と熱帯・亜熱帯資源の活用、農林水産物の流通及び国際政策、食料生産システムの構築、品種改良及び新作物の創生並びに効率的な家畜生産において専門的な教育を行い、農水産業の発展に寄与できる、高度の専門的能力と豊かな学識を備えた人材を養成する。	熱帯資源・植物生産科学	7
		動物資源生産科学	
		地域・国際資源経済学	
応用生命科学	生物資源の有効活用、未利用資源及び廃棄物の有効利用、食品の機能開発、食の安全管理、食と健康、先端的バイオサイエンス及びバイオテクノロジー並びに分子から個体に至る機能開発において専門的な教育を行い、農水産業の発展に寄与できる、高度の専門的能力と豊かな学識を備えた人材を養成する。	生物機能化学	8*
		食品機能科学	
		先端応用生命科学	
農水圏資源環境科学	農水圏における食料資源環境の整備・保全、食料生産の向上及び貯蔵・輸送の効率化、農作物の生物防御、森林環境の保全と資源保護並びに水産資源及び環境の保全において専門的な教育を行い、農水産業の発展に寄与できる、高度の専門的能力と豊かな学識を備えた人材を養成する。	連携大学院タカラバイオ（株）	8
		生物環境保全科学	
		地域資源環境工学	
		水産資源環境科学	

*タカラバイオ(株)との連携大学院定員1名を含む

(令和4年4月1日現在)

大学院連合農学研究科 シンボルマーク

デザインコンセプト

鹿児島大学大学院連合農学研究科を構成する4つの農水産系学部を4枚の羽根で表現し、連合農学研究科が今後ますます発展するようという意味が込められている。青い羽根は水産学部、緑の羽根は農学部をイメージし、デザインを取り囲む円の部分は緑の大地を表現している。





農学部 の 4 年間

1年生 主な科目		2年生 主な科目	
農業生産科学科	◆学部専門科目 農学入門 農業と社会	■応用植物科学コース 栽培技術論 果樹園芸学 作物学	教育コースへの配属
		■畜産科学コース 畜産学 応用動物行動学 家畜育種学	
		■食料農業経済学コース 農産物価格理論 農業経営学 フードシステム入門	
食料生命科学科	◆共通教育科目 初年次セミナーⅠ 初年次セミナーⅡ 大学と地域 体育・健康 情報活用 英語 異文化理解入門	有機化学 無機化学 生物化学Ⅰ 生物化学Ⅱ 食料生命科学序論	教育コースへの配属
		応用微生物学 食品化学 代謝生化学 基礎分子生物学 植物生理学 品質管理システム学 酵素化学 分析化学 栄養化学 食品微生物学 食品機能学 細胞分子生物学	
農林環境科学科	教養教育科目 人文・社会科学分野科目 自然科学分野科目 総合Ⅰ(課題発見) 総合Ⅱ(課題解決)	森林科学概論 地域環境システム学概論 スマート農学概論	教育コースへの配属
		■森林科学コース 森林生態学 森林保護学 森林経済学	
国際食料資源学 特別コース		■地域環境システム学コース 農業気象環境学 環境水理学 地盤環境工学	教育コースへの配属
		■スマート農学コース 農業気象環境学 災害地形学 キャリアデザイン 農林業ICT論	
		実用英語A,B,C 国際開発学 水産学概論 キャリアデザイン	
		実用英語D 海外研修 国際食料資源学 Elements of Agricultural Science Elements of Fisheries Science	

	3年生 主な科目	4年生 卒業研究・ゼミ	
	農場実習Ⅱ 植物生産学実験Ⅱ 植物生産学実験Ⅲ 植物生産学応用実験 植物生産実地研修	欧文講読 卒業論文	
	飼料化学 動物発生工学 家畜解剖学演習 畜産物加工実習	家畜人工繁殖学実習 欧文講読 卒業論文	
	農産物流通論 農産物マーケティング論 農業構造論 農村計画学	農村課題解決プログラム 欧文講読 卒業論文	
教育コースへの配属	■食品機能科学コース 植物性食品学 分子食品学 糖質科学 食品機能科学実験 機器分析化学	食品機能科学特別講義 食品機能英語 卒業論文	
	■食環境制御科学コース 植物栄養・肥料学 植物病理学 青果保蔵学 土壌科学 暖地農業実習 食環境微生物学	食環境制御科学英語 卒業論文	
	■焼酎発酵・微生物科学コース 焼酎製造学 焼酎製造学実験 排水処理論 発酵食品製造実習 醸造微生物学	実践経営論 焼酎発酵・微生物科学英語 卒業論文	
	育林学 森林利用学 地域計画学 砂防学 森林科学欧文演習	国際森林論 卒業論文	
	農業水利環境学 環境計測学 農地保全学 地域環境情報解析学 専門英語	国民経済と農業 卒業論文	
	測量学Ⅱ 測量学実習Ⅱ 農産物流通論 育林学 地域計測学	卒業論文 国際森林論	
卒業プロジェクト 指導教員への配属	実用英語E 国際経済論 国際関係法概論 国際食料関係論 Agricultural Production Science Fisheries Production Science	卒業プロジェクト	大学院進学・就職

※3、4年次から研究室配属が決まり、指導教員の下で卒業論文・プロジェクト研究を行います。

※インターンシップや就職活動、大学院進学準備も研究活動と並行して行います。



国際交流・外国人留学生

本学部では、現在、本学部の教職員が窓口となり、下記の約30大学と学術交流協定および学生交流覚書を締結して、共同研究、教員の交流、学生の交流を実施しています。外国人留学生は、中国、東南アジアを中心に、毎年約20カ国、約90名を受け入れ、本学部からは毎年数名を派遣しています。さらに、短期海外実習として数十名の学生が毎年海外へ出かけています。

国際交流協定締結大学[部局間学術交流協定]

締結大学	国名	締結年月日
中国文化大学 農学院	台湾	平成24年10月3日
リロングウェ 農業天然資源大学	マラウイ	平成28年8月23日
メーファンラン大学 農産学学部	タイ国	平成28年11月14日
セント・ オーガスティン大学	タンザニア連合共和国	平成30年4月19日
華中農業大学	中華人民共和国(中国)	平成30年5月22日
ガウハティ大学	インドネシア共和国	平成30年11月22日
ヌエボ レオン自治大学	メキシコ合衆国	平成31年1月22日
マラウイ科学技術大学	マラウイ共和国	平成31年3月25日

(令和5年1月1日現在)

国際交流協定締結大学[大学間学術交流協定]

締結大学	国名	締結年月日
ジョージア大学	アメリカ合衆国	昭和54年11月29日
雲南農業大学	中華人民共和国(中国)	平成元年5月11日
湖南農業大学	中華人民共和国(中国)	平成元年6月2日
バレンシア工芸大学	スペイン	平成12年2月7日
メジョー大学	タイ王国	平成13年4月30日
国立モンクット王 トンブリ工科大学	タイ王国	平成14年1月16日
ベトナム国家農業大学	ベトナム社会主義共和国	平成14年3月6日
江原大学校	大韓民国	平成14年4月5日
アンダラス大学	インドネシア共和国	平成15年12月1日
カセサート大学	タイ	平成17年12月19日
カフルアッシャイフ大学	エジプト	平成23年9月5日
四川大学錦江学院	中華人民共和国(中国)	平成23年12月16日
ロッテンブルク 林業大学	ドイツ	平成25年11月5日
スリウィジャヤ大学	インドネシア共和国	平成27年11月2日
ベンハ大学	エジプト・アラブ共和国	平成30年6月22日
ノースダコタ州立大学	アメリカ合衆国	平成26年1月15日
スロバキア農業大学	スロバキア	平成27年5月1日
忠北大学校	大韓民国	平成28年8月18日
カントー大学	ベトナム社会主義共和国	平成21年5月25日
セントラル クイーンズランド大学	オーストラリア連邦	令和元年12月5日

(令和5年1月1日現在)

教員の海外渡航数と外国人研究者の受入れ数

区域	渡航数	受入れ数	計
アジア	9	2	11
ヨーロッパ	3		3
アフリカ	1		1
北アメリカ	4		4
計	17	2	19

短期交換留学生数

国名	派遣	受入
台湾		1
大韓民国(韓国)		1
タンザニア		1
オーストラリア	1	
アメリカ合衆国	1	
タイ	1	
計	3	3

(令和4年10月1日現在)

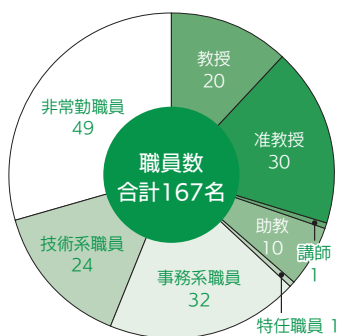
外国人留学生数

地域	国名	学部	修士*	博士*	計
アジア	インドネシア共和国		1		1
	タイ王国			1	1
	大韓民国(韓国)	11	1	2	14
	中華人民共和国(中国)	26	6	5	37
	ベトナム社会主義共和国	8	16		24
	ミャンマー連邦共和国		1	1	2
	ラオス人民民主共和国			1	1
	バングラデシュ		1		1
	フィリピン		1		1
アフリカ	ケニア		2		2
	ウガンダ共和国			1	1
	ソマリア	1			1
	ベナン共和国			1	1
	シエラレオネ		1	1	2
	南スーダン共和国		1		1
	フィジー共和国		1		1
大洋州	ソロモン	1			1
中南米	ガイアナ共和国			1	1
計		47	32	14	93

* 鹿大農学部教員が主指導教員となっている学生 * 研究生を含む
(令和4年10月1日現在)

農学部 の主な進路等

職員数(現員) (令和5年4月1日現在)



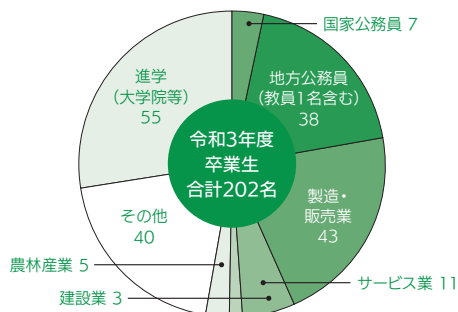
学生定員現員

区分	学 科	令和3年度 入学定員	現 員				計
			1年次	2年次	3年次	4年次	
農学部	農業生産科学科	75	82 (44)	85 (47)	88 (44)	104 (48)	359 (183)
	食料生命科学科	70	74 (54)	69 (50)	71 (48)	79 (49)	293 (201)
	農林環境科学科	60	64 (27)	60 (23)	62 (24)	64 (19)	250 (93)
	計	205	220 (125)	214 (120)	221 (116)	247 (116)	902 (477)

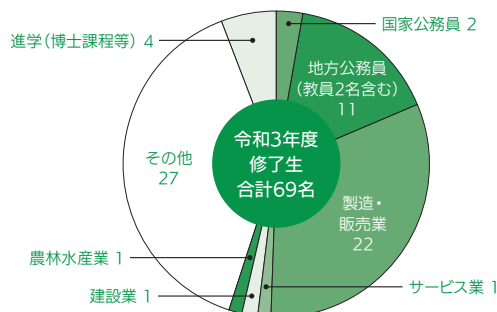
*()内は女子数で内数を示す (令和4年5月1日現在)

進路状況

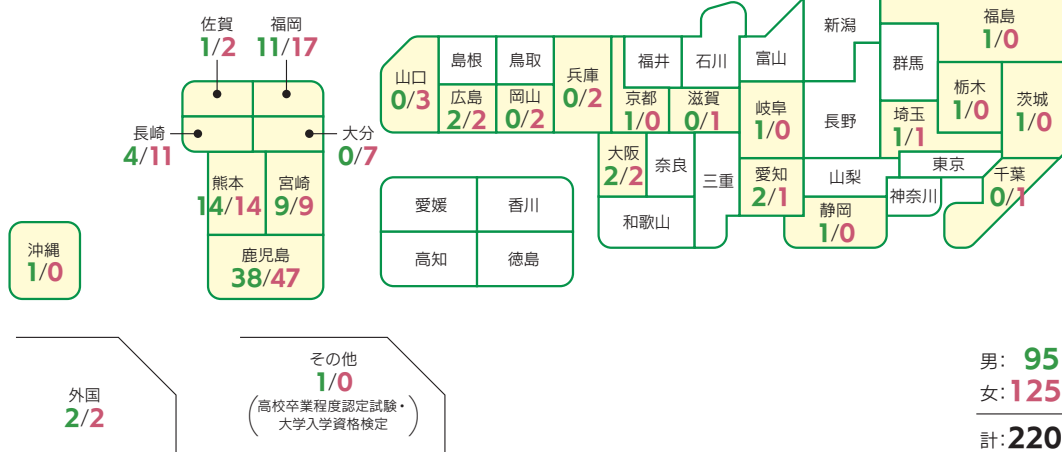
学部



大学院(修士課程)



令和3年度 出身高校所在地による入学者数



男: 95
女: 125
計: 220

取得できる資格

農業生産科学科	
家畜人工授精師	(受精卵移植も含む) (資格) (畜産科学)
飼料製造管理者※	(任用資格) (畜産科学)
食品衛生管理者※	(任用資格) (畜産科学)
食品衛生監視員※	(任用資格) (畜産科学)
食鳥処理衛生管理者	(任用資格) (畜産科学)

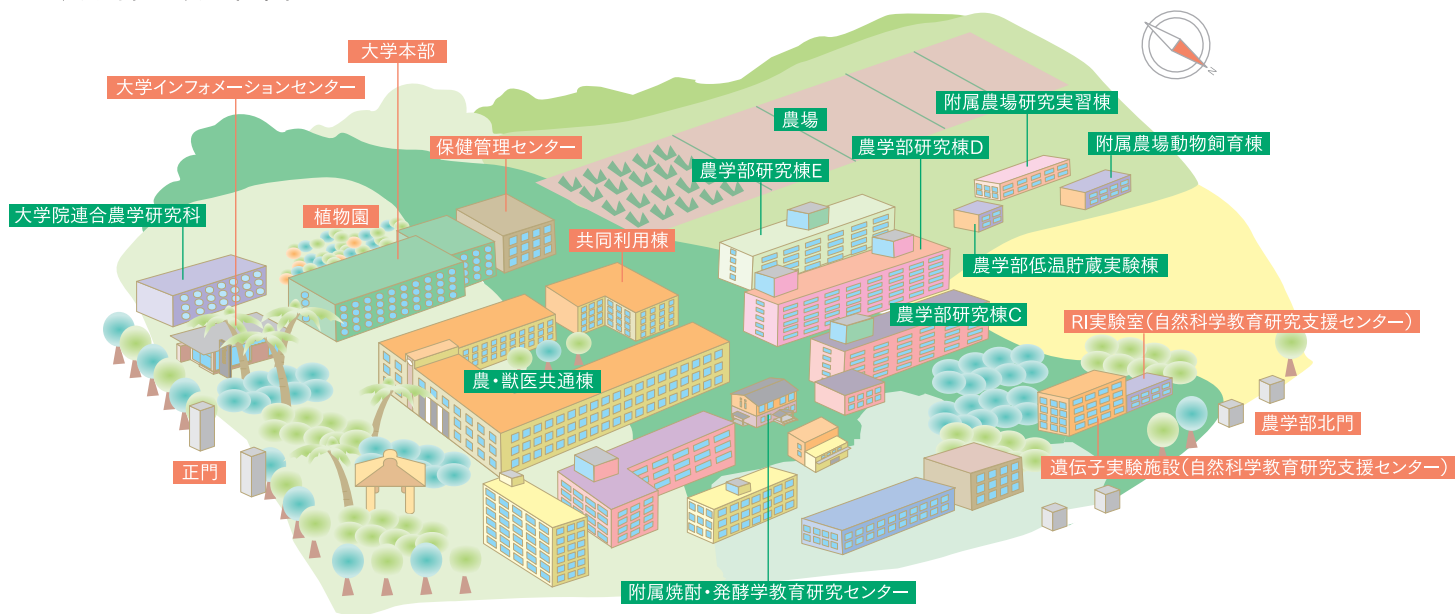
食料生命科学科	
食品衛生管理者※	(任用資格)
食品衛生監視員※	(任用資格)
農林環境科学科	
樹木医補	(資格)
森林情報士2級	(※資格)
自然再生士補	(資格)

※卒業後、食品衛生に関連する職種についての場合に取得できる資格です。
※国際食料資源学特別コースは除く。
※末尾の赤字表記は、免許・資格を取得できるコースを示しています。

取得できる教員免許

学科・専攻	免許状の種類	免許教科
農業生産科学科	中学校教諭一種	理科
	高等学校教諭一種	農業・理科
食料生命科学科	中学校教諭一種	理科
	高等学校教諭一種	農業・理科
農林環境科学科	中学校教諭一種	理科
	高等学校教諭一種	農業・理科

■農学部施設配置図



交通アクセス

- 鹿児島交通(⑮・⑲番線)..... 鹿大正門前下車・徒歩1分
- 市営バス(⑨・⑪・⑳番線) ... 鹿大正門前下車・徒歩1分
- 市電..... 唐湊もしくは神田(交通局前)電停下車・徒歩5分
騎射場電停下車・徒歩5分
- JR..... 郡元駅下車・徒歩10分
鹿児島中央駅下車・徒歩20分
- 車..... JR鹿児島中央駅から5分



国立大学法人

鹿児島大学
KAGOSHIMA UNIVERSITY

農学部概要

TEL: 099-285-8515 FAX: 099-285-3572

URL: <https://ace1.agri.kagoshima-u.ac.jp>

E-mail: nksoumu@kuas.agri.kagoshima-u.ac.jp